

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

佐賀県 武雄市

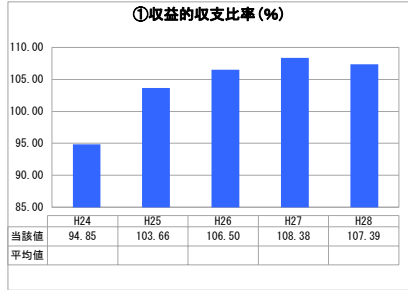
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.47	102.24	4,104

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
49,674	195.40	254.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,702	0.84	3,216.67

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



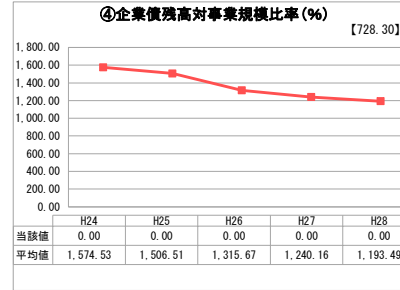
「単年度の収支」



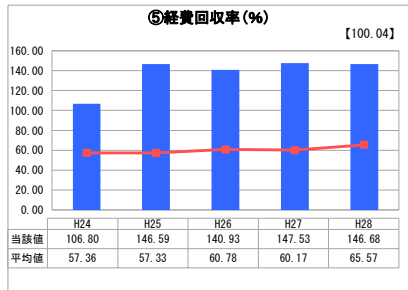
「累積欠損」



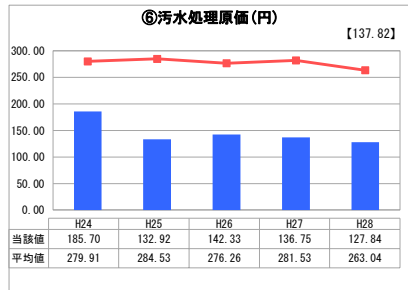
「支払能力」



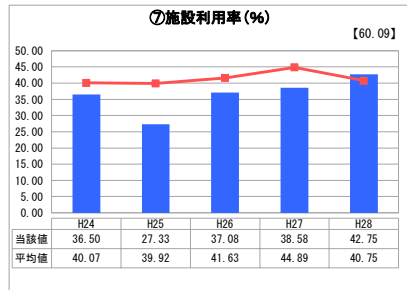
「債務残高」



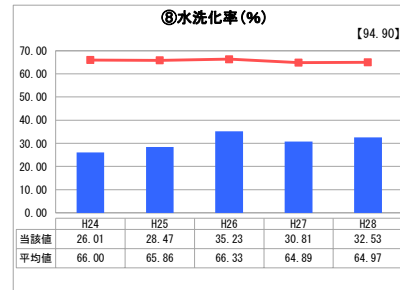
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

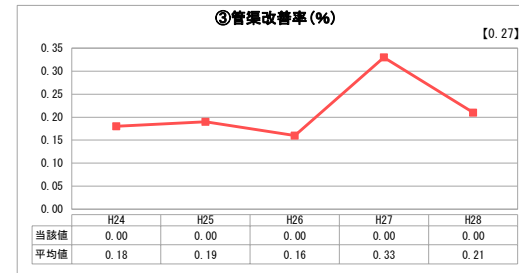
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

終末処理施設には2基の沈殿槽があるが、現在のところ、流入量的に1基のみ稼働している。当該1基については、処理能力的にフル稼働に近い状況にある。

結果として費用対効果が上がり、収益的収支比率は約107%と単年度収支で黒字、経費回収率についても約146%と良好な状況になっている。

施設利用率としては、上記のとおり未だ余裕があり、施設の有効活用を考えれば、接続率を上げ流入量を増やす必要がある。しかしその場合、2基目の沈殿槽を稼働させることとなり、結果として費用対効果は下がり、しばらくの間、収益的収支比率や経費回収率が低下することが予想される。

武雄市では、現在公共下水道の整備中であり、接続はこれからであるため、水洗化率は類似団体平均値と比較して低く出てしまう。水洗化率を上げていくため、今後も普及促進に取り組んでいく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

当市の公共下水道の供用開始は平成19年度からであり、平成28年度現在では老朽化には至っていない。

## 全体総括

収益的収支比率や経費回収率は類似団体平均値より高く、かつ汚水処理原価は低いことから、健全な経営状況にあると言える。

施設利用率的に処理施設の能力的には余裕があるが、水洗化率で分かるとおり、いまだ未接続者が多いというのが現状である。

当市は現在、公共下水道の整備を推進している段階にあり、今後の供用開始区域の拡大と併せて、接続率を高めていくことが重要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債務高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。